

令和6年度 県人会担い手育成事業(招へい) 報告書

期間/令和6年7月5日(金)～16日(火)



主催/福岡県

実施/公益財団法人福岡県国際交流センター

目 次

・ 概要	1
・ 参加者名簿	2
・ 全体プログラム日程	3
・ プログラム内容	4～10
・ 参加者の感想	11
・ 参加者レポート／子弟	12～19
・ 参加者レポート／青年リーダー	20～25
・ 参加者レポート／福岡県移住者子弟県費留学生	26～29

概 要

1 目的

海外福岡県人会会員の子弟を福岡県へ招へいし、様々な体験を通じ、福岡・日本に対する関心や興味を高め理解を促すことにより、今後の県人会活動の一翼を担い、福岡・日本との交流の核となる後継者を育成すること、併せて県人会の活性化を図ること。

2 期間

令和6年7月5日（金）～16日（火）

3 招へい者人数

7か国20名 【内 訳】 子弟11名、青年リーダー9名

国 名	子弟者数	青年リーダー数
ブラジル	3	2
コロンビア	1	1
アメリカ	3	2
メキシコ	1	1
ペルー	1	1
アルゼンチン	1	1
パラグアイ	1	1
合 計	11	9

4 実施項目・内容

(1) 同年代の子どもたちとの交流

八女市立黒木小学校、福岡市立那珂小学校

(2) 福岡の魅力に触れる

太宰府天満宮、マリンワールド海の中道、福岡タワー、
安川電機ロボット村、小倉城、博多祇園山笠追い山ならし

(3) ルーツを探る

親戚、知人、家族会会員、ボランティア宅へのホームステイ

(4) 日本文化の体験

手すき和紙（うちわ作り）体験、日本の伝統の遊び 等

5 主催／福岡県

実施／公益財団法人福岡県国際交流センター

参加者名簿

【参加者】 7か国12県人会から子弟11名、青年リーダー9名が参加しました。

No.	県人会名	役割	氏名	国名
1	ブラジル福岡県人会	子弟	鈴江 チアゴ 栄志	ブラジル
2		リーダー	池尻 カレン 直美	
3	ベレン福岡県人会	子弟	伊藤 真紗美 ジュリア	
4	トメアスー福岡県人会	子弟	稲田 大河	
5	マナウス福岡県人会	リーダー	宮崎 アルメイダ ジャイロ	
6	コロンビア福岡県人会	子弟	中村 スアレズ 光咲 アレハンドロ	コロンビア
7		リーダー	竹上 隆	
8	南加福岡県人会	子弟	篠原 ウィリアム 昌	アメリカ
9		リーダー	ブラウン 晃子	
10	シアトル・タコマ福岡県人会	子弟	船越 ペネロピ ユメ セレラ	
11	ハワイ福岡県人会	子弟	岩本 リー ケイラ ハルカ	
12		リーダー	シンプソン イー ミッシェル	
13	メキシコ福岡県人会	子弟	ロメリ 行徳 ズエ	メキシコ
14		リーダー	井上 織田 カレン モニカ	
15	ペルー福岡県人会	子弟	松藤 カイ	ペルー
16		リーダー	佐々木 ナルミ	
17	アルゼンチン福岡県人会	子弟	ペドレ エミリア	アルゼンチン
18		リーダー	津留 イリナ	
19	パラグアイ福岡県人会	子弟	伊藤 葵	パラグアイ
20		リーダー	石川 眞奈美	

【福岡県移住者子弟留学生（県費留学生）】

No	県人会名	氏名	国名
1	ブラジル福岡県人会	山積 エドアード 成一	ブラジル
2	パラグアイ福岡県人会	北川 西岡 クリスティーナ 彩	パラグアイ
3	在ボリビア福岡県人会	藤田 大輝 ミゲル	ボリビア
4	在ボリビア福岡県人会	徳永 アルベルト 準一	ボリビア
5	メキシコ福岡県人会	谷川 フロレス ヨアリ	メキシコ
6	ペルー福岡県人会	玉那覇 松藤 デイエゴ	ペルー
7	ハワイ島福岡県人会	能丸 紘右 ジューン	アメリカ

「福岡県移住者子弟留学生とは」・・・

専門の知識と、日本、そして福岡県についての理解を深めるために、福岡県内の大学に1年間留学している海外福岡県人会の子弟。

全体プログラム日程

日 程		スケジュール内容	宿泊先
7/5 (金)	終 日	入国	グローバル アリーナ
7/6 (土)	午 前	オリエンテーション	
	昼	歓迎会	
	午 後	小学校交流準備	
7/7 (日)	午 前	太宰府天満宮視察	
	午 後	小学校交流準備	
7/8 (月)	午 前	マリンワールド海の中道見学	
	午 後	福岡県庁・福岡県議会表敬	
7/9 (火)	午 前	八女伝統工芸館見学 (手すき和紙体験)	
	午 後	八女市立黒木小学校との交流 ダニエル・イノウエ・ミュージアム見学	
7/10 (水)	午 前	福岡市立那珂小学校との交流	
	午 後	ららぽーと福岡見学	
7/11 (木)	午 前	安川電機ロボット村見学	
	午 後	北九州市視察 (魚町銀天町・旦過市場、小倉城)	
7/12 (金)	午 前	福岡市視察 (福岡タワー、福岡市民防災センター)	ホームステイ
	午 後	博多祇園山笠追い山ならし見学 ホストファミリーとの対面	
7/13 (土)	終 日	ホストファミリーとの交流	
7/14 (日)	終 日	ホストファミリーとの交流	
7/15 (祝)	午 前	ホストファミリーとの交流	
	午 後	送別会	
7/16 (火)	終 日	出国	—

プログラム内容

<p>7月5日 (金)</p>	<p style="text-align: center;">◎入国</p> <p>7か国(ブラジル・コロンビア・アメリカ・メキシコ・ペルー・アルゼンチン・パラグアイ)から子弟11名、青年リーダー9名が来福し、家族会会員と県費留学生が出迎えました。</p> 
	<p style="text-align: center;">◎オリエンテーション・歓迎会</p> <p>まず、引率の青年リーダーと福岡在住の子弟留学生にそれぞれの役割について説明して、その後で子供たちも加わり、全体オリエンテーションを行いました。福岡県国際交流センター元永事務局長が歓迎挨拶の後にプログラムの趣旨や滞在スケジュールの説明を行い、県費留学生が通訳しました。</p> <p>歓迎会は、滞在先のグローバルアリーナの「GAクラブ」で開催しました。ホストファミリーや家族会会員等合わせて53名が参加して、親睦を深めました。</p> 
<p>7月6日 (土)</p>	<p style="text-align: center;">◎小学校との交流準備</p> <p>滞在中に訪問する2つの小学校で、自国紹介のプレゼンテーションを行うため、発表資料を作成しました。青年リーダーや子弟留学生のサポートを受けながら、出発前に用意した写真や手書きのイラストを使い、自国の名所や名物、家族のことなどを模造紙にまとめて、発表の練習をしました。</p> 

◎太宰府天満宮見学

視察初日は、太宰府天満宮を訪問しました。まず参拝して、学業祈願を経験しました。ご本殿に上がると、子供たちは神職の動きを注意深く観察し、揃って頭を下げることができました。境内には、お守りやおみくじ、鯉など初めて目にするものが多く、福岡の代表的な神社で伝統文化を学ぶ機会となりました。

昼食は、茶屋でかつ井と梅が枝餅を食べて、午後はグループ単位で参道を自由散策しました。この日は滞在中で最も暑い日となり、汗をかきながらの散策でしたが、参道のお店を見たり、冷たいものを食べたりして、充実したアクティビティになりました。

7月7日
(日)



◎マリンワールド海の中道

午前中は、「九州の海」をテーマにしたマリンワールド海の中道へ行きました。最初に大水槽のサメやエイ、ラッコ、ペンギン、クラゲなど、それぞれ興味のあるコーナーを自由に見学し、イルカとアシカのショーをみんなで観ました。水族館が初めての子どももいて、海が近い福岡県の魅力を楽しみました。

海の中道から県庁への移動は、JRを利用して、公共交通機関の乗車を体験しました。

7月8日
(月)



◎福岡県庁・福岡県議会表敬

午後は、福岡県庁と福岡県議会を表敬訪問しました。県庁では大曲副知事、議会では香原議長より歓迎のご挨拶をいただき、県人会を代表して、ブラジルの青年リーダー池尻カレン直美さんが御礼の挨拶を述べました。子供たちは日本語での自己紹介を立派に行うことができ、出発前に開催した日本語教室の成果を感じました。礼儀正しい雰囲気の中で、子供たちの緊張した表情が印象的でした。



◎八女伝統工芸館

八女伝統工芸館では、手すき和紙のうちわ作りに挑戦しました。子供たちは、初めての体験に緊張しながら、真剣に取り組んでいました。出来上がったうちわは、八女を訪れた記念に持ち帰りました。工芸館には仏壇や提灯など八女地方の伝統工芸品が展示されていて、ガイドさんの説明を受けながら館内の見学も行いました。



◎八女市立黒木小学校

八女市立黒木小学校では、4年生と5年生の教室に分かれて、給食の時間から参加しました。言葉の壁がある中、コミュニケーションが上手くいくのか心配でしたが、給食が終わる頃には緊張もほぐれ、笑顔が見られました。昼休みは、炎天下の校庭で、生徒と一緒にドッジボールや一輪車を楽しむ子供もいました。

交流会は体育館で行われ、準備した模造紙を使って自分の国について発表しました。無事に発表が終わると、温かい拍手が贈られました。その後、グループに分かれてゲームを楽しみました。黒木小学校のみなさんはフレンドリーで優しく、言葉は通じなくても友達になることができました。

7月9日
(火)



◎ダニエル・イノウエ・ミュージアム

日系人として初めての米連邦議会議員を務めたダニエル・イノウエ氏は、ハワイ生まれの日系二世で、父親が福岡県八女市の出身です。その功績を伝える施設を見学しました。活躍したエピソードをマンガで紹介したコーナーもあり、子供たちは日系米国人の功績と歴史を学ぶことができました。ミュージアムは星野川添いにあり、眺めも良く、暑い一日を締めくくる休息のひとつにもなりました。



◎福岡市立那珂小学校との交流

那珂小学校では、4年生と交流しました。最初に体育館で「お迎え式」があり、生徒による花のアーチで迎えられました。お礼の挨拶と自己紹介の後、生徒によるエイサーの披露があり、子供たちはその歓迎ぶりに驚いていました。

式の後、5つのクラスに分かれて「文化発表」を行いました。子供たちは日本語で自国紹介を行い、生徒は日本の文化を披露しました。習字やけん玉、折り紙を教えてくれたり、ダルマ落としやおはじきをしたり、遊びに夢中になると会話も弾んで、楽しい時間を過ごしました。教室では、給食と掃除にも参加しました。

午後から暑さが厳しくなり、「お別れ会」は教室からオンラインで行いました。交流会を終えて学校を離れる時、泣きながら見送ってくれる生徒もいて、別れを惜しむ姿が印象的でした。日本の小学校の日常生活を経験でき、貴重な一日となりました。



7月10日
(水)

◎ららぽーと福岡

那珂小学校から、ららぽーと福岡まで徒歩で移動し、施設の入り口にある巨大ガンダムを見ると歓声が上がりました。ガンダムの前で集合写真を撮り、施設内はグループに分かれて自由に見学しました。日本ブランドの衣類や100円ショップ、ゲーム機など、興味のあるお店で買い物をしたり、念願の日本食(ラーメン、牛丼、たこ焼き)を楽しんだりして、それぞれに充実した時間を過ごしました。



◎グローバルアリーナ

滞在先のグローバルアリーナでは、県費留学生のアイデアで、夕食後の時間にシャボン玉やサッカー、バレーボールをして交流を深めました。



◎安川電機ロボット村

終日、北九州市を視察しました。安川電機ロボット村では、ロボット工場を見学しました。ここでは、ロボットがロボットを作る工程を見て、ロボット工場を見てみたい！という夢を叶えた子供もいました。みらい館では、子どもたちとロボットがゲーム感覚で競い合ったり、壁面のキューブによるエンターテインメントショーを見たりして、ロボットの最新技術を楽しんで体感することができました。



◎小倉魚町銀天街・且過市場

黒崎から JR を利用して小倉へ移動しました。魚町銀天街と且過市場を歩いて、北九州の歴史あるアーケード商店街を観ました。昼食は、グループ毎に分かれて、それぞれ興味のあるお店に入りました。小倉のソルフードのひとつ資さんうどんでは、ごぼう天うどんやかつカレーを食べました。魚町銀天街には専門店が多く、お土産を探す時間にもなりました。

7月11日
(木)



◎小倉城

小倉城では、お城をバックに集合写真を撮り、場内を自由に見学しました。お城の中は、体験型観光スポットになっていて、流鏝馬や籠乗りの体験、着物やサムライ衣装を試着など、日本の歴史に触れる様々な経験ができました。子供たちはお城の建築や最上階から見える小倉市内の眺めにも感激していました。この日は、子供同士で行動する場面が多く、絆が深まる一日となりました。



◎福岡タワー

終日、福岡市内を視察しました。福岡市のシンボルのひとつ福岡タワーでは、展望フロアから見える博多湾と市街地の景色を写真に収めました。フロアの一角には撮影スポットがあり、国ごとに集まって、賑やかな撮影会となりました。



◎福岡市民防災センター

災害の学習施設として人気のある福岡市民防災センターでは、体験コースに参加しました。災害の画像に怖さを感じる子供もいましたが、消火器の使い方、地震の疑似体験、煙からの非難を実践し、災害の恐ろしさと備えを学びました。



7月12日
(金)

◎博多山笠追い山ならし

西新から地下鉄を利用して祇園へ向かいました。祇園にある東長寺では、初めて目にする大仏や五重塔を見学しました。

「追い山ならし」では、地元のごりょんさんの計らいで「勢い水」に参加することができました。子供たちは博多の代表的な祭りを間近に観て、大興奮していました。その後、大通りから入った狭い道で昇き山が走る様子を見ながら、熱気あふれる博多の街を歩き、猛暑の中での視察スケジュールを無事に終了しました。



◎ホストファミリーとの対面

福岡県国際交流センターでは、武濤専務理事より歓迎の挨拶がありました。記念品の贈呈の後、この日からお世話になるホストファミリーと対面し、少し緊張した面持ちで、それぞれの滞在先へ移動しました。



7月13(土)	ホストファミリーとの交流
7月14(日)	ホストファミリーとの交流
7月15日 (日)	<p style="text-align: center;">◎送別会</p> <p>ホストファミリー、家族会役員、県関係者等、67名が参加して、送別会を開催しました。ホストファミリーとの別れが悲しくて、涙する子供もいましたが、会話が弾み、和やかな会となりました。</p> 
7月16日 (火)	<p style="text-align: center;">◎帰国</p> <p>12日間のプログラムを無事に終え、子供たちは元気に帰国しました。福岡空港にはホストファミリーや県費留学生が見送りに訪れました。</p> 

参加者の感想

アンケートより抜粋

【子弟からの感想】

- ・小学校での体験が一番の思い出です。学校生活や給食を経験出来ました。那珂小学校では、オープニングにダンスの披露があり素晴らしかった。
- ・マリンワールドのイルカのショーが一番思い出です。友だちがいっぱいできて、一生忘れません。
- ・一番の思い出は、ホームステイです。ホストファミリーが大好きです。離れるのは悲しかった。
- ・太宰府天満宮でのプレゼンテーション（学業祈願）がよかった。
- ・県知事・議会表敬訪問は緊張したけれど、とても素晴らしかった。夕食の後、みんなでサッカーをして遊んだのも楽しかったです。
- ・小倉城は中に入って、ワクワクしました。
- ・うちわを作るのが楽しかった。福岡を離れたいです。
- ・ららぽーとを自由に散策するのは楽しかったし、いろいろなほしいものを買いました。お店の広さもすごいと思いました。
- ・ロボット工場が楽しかった。防災センターでの火事や地震の経験も忘れられないです。
- ・山笠では、おばさん（ごりょんさん）たちが優しくて、みんなで（勢い水に）参加できた。忙しいスケジュールだったので、休む時間が欲しかったのとゴミをきれいにさせる場所が足りなかった。
- ・日本文化の体験が好きでした。以前から好きでしたが、今回の旅行でさらに好きになりました。食べ物がほんとに美味しくて、行った場所はどれも大好きでした。福岡にまた来たいです。

【リーダーからの感想】

- ・友達がたくさんきてただけでなく、全てのアクティビティが本当に素晴らしかった。小学校の日常生活を見ることができて嬉しかった。
- ・マリンワールド、福岡市民防災センター、安川電機ロボット工場が印象に残りました。子供たちとリーダーたちのことも忘れません。
- ・小倉城で着物を着て、良い経験となりました。ホストは私たちが家族のように接してくれました。
- ・私は黒木小学校が本当に好きでした。小さい頃の思い出がありました。
- ・那珂小学校が最も思い出に残りました。生徒と個人的に話せたし、遊べたことが特に良かったです。学校は私たちのために準備を良くしてくれました。帰る時に悲しくなりました。
- ・すべてのプログラムが楽しかったのですが、山笠が一番好きでした。
- ・防災センターは子供たちが危険な状況で何をすべきか知るために必要な活動だと思いました。
- ・県庁表敬訪問では、この招へいプログラムを続けてくれて、私は驚きと感謝の気持ちでいっぱいになりました。自分の家族のルーツを知りたいと強く思いました。家族にすべての経験を伝えたい。
- ・県庁表敬訪問は、汗をかく前に午前中だと更に良かったかと思いました。
- ・ホームステイのために、子供たちは一般的な礼儀を知る必要があります。
- ・子弟全員で話をする機会があれば、チームワークがもっと良くなったかと思います。携帯を預かる時間があっても良いのでは。
- ・一番の思い出はホームステイです。方言を聞けることは祖母と触れているみたいでした。これからもこの事業が末永く続いて欲しいです。

参加者レポート

子弟



ブラジル福岡県人会
鈴江 チアゴ 英志
Suzue Thiago Eiji

「プログラムで得たこと・学んだこと」

新しい友達を作り、先祖が住んでいた福岡県の文化と歴史を学び、新しい人々と出会い、もっと自立しました。学校訪問は本当に楽しかったです。一番良かったのはホームステイで、日本人の日常生活を体験できたことです。とても丁寧に対応していただき、まるで家族の一員のように感じました。できることなら、家族ともっと時間を過ごしたかったです。お世話になった方々に感謝を伝えるために福岡県に戻りたいです。

～御家族からのメッセージ～

彼は日本の文化にいつそう興味を持ち、より独立し、新しい友達を作ることにもっと興味を持つようになりました。さらに、彼が日本語の授業に一生懸命取り組み、日本語を話すことが恥ずかしくなくなっていく姿も見られました。他国の子どもたちや留学生と触れ合ううちに、外国語を学ぶことに興味を持つようになりました。

この子弟招へいプログラムは、私たちに時を隔てていた福岡の家族や友人たちと再会するきっかけを与えてくれた、とても大切なものでした。ブラジルでも子弟招へいプログラムのおかげで、ブラジル福岡県人会に積極的に参加するようになりました。



ベレン福岡県人会
伊藤 真紗美 ジュリア
Ito Masami Julia

「プログラムで得たこと・学んだこと」

私は、小さい時から子弟招へいプログラムのことを聞いていました。姉がプログラムの申請準備をしているのを見て、私も参加したいと考えていましたが、姉はコロナウィルスの影響で参加できなくなり、彼女はオンライン日本語教室に他の子供たちと参加して、私も一緒に参加しました。当時私は8歳でした。

この度は機会をいただき、ありがとうございました。たくさんの友達ができて、他の国の文化を知るだけでなく、現在の日本の文化についてもっと知ることができました。また日本に行きたいと思っています。福岡で出会った人たちにまた会いたいです。それからホームステイの猪俣さんには大変お世話になりました。またいつか会いたいなと思っています。

～御家族からのメッセージ～

私は他の候補者の母親たちと会う機会ができて、これから私たちの他の県人会との統合を推進する素晴らしい友情を築きたいと思います。真紗美は日本での子弟招へいプログラムを受けて、私が思っていたより自立しました。それから真紗美は、今ベレンで毎日のように日本文化と共に暮らしていますが、彼女がこの研修で経験したことは、とても大事だと思っています。

福岡県国際交流センター全員の寛容な対応に感謝したいと思います。また、ホームステイの真紗美のお世話をしてくださったイベッチ猪俣さんのもてなしにも感謝したいと思います。



トメアスー福岡県人会

稲田 大河

Inada Taiga

「プログラムで得たこと・学んだこと」

僕が11歳の時はコロナ禍で、子弟招へいプログラムが延期となり、再開した時には年齢が過ぎてしまい、がっかりしていました。そんな中、母が「今年の応募書類を見たら、該当者がいないときは14歳まで応募できるという記載があったよ!」と教えてくれ、飛び跳ねる思いでした。合格通知をいただいたときは、本当に嬉しかったです。僕は日本語での日常会話はできますが、生活の身の回りのことが苦手なので、少し心配もありましたがワクワク楽しみにしていました。

日本に着いてからは毎日が喜びの連続でした。すべてが楽しかったのですが、特に印象に残っているのは小学校での交流です。だるま落としやこま回しを教えてもらい、一緒にドッジボールをしたり、給食の残りのおかずのじゃんけん争奪戦にも参加したりしました。外国からくる僕たちのために、日本の歌にアルファベットをふってくれた歌詞を用意してくれたり、ブラジルの旗とポルトガル語が書いてあるお手紙を用意してくれたり・・・と、優しい思いがたくさん伝わってきました。

今回のプログラムで、「僕ができることを積極的にしてみよう」と思っていました。ポルトガル語ではない言語の人と、共通の日本語を使って話したり、似ている言語のスペイン語では、教えてもらったり、使ってみたり、聞いてみたりしました。自分から進んでコミュニケーションをとることの大切さを学びました。

今回の研修でセンターの職員の皆さん、ホームステイ先の松田さん、リーダーや留学生の皆さんなど多くの方々にお世話になりました。本当にありがとうございます。県費留学生としてまた福岡に行きたいです。そのために、苦手な漢字の勉強も頑張っていきます。

～御家族からのメッセージ～

コロナ禍で年齢が過ぎてしまった時には、大河だけではなく私も本当がっかりしていました。それまでお小遣いを貯めたり、日本語能力試験の勉強を頑張っていたりを知っていただけに、ショックが大きかったのかもしれない。なので、今回の応募年齢の規定に新たな記載が加わったことを見た時、嬉しくてたまりませんでした。

今回参加する子弟の中で、大河は少し年齢が上なので「年上としてプレッシャーがかかるのかな?」と心配していましたが・・・、のほほんとした性格で、マイペースに楽しんできたようです。本人は年齢とは関係なく「僕は日本語での日常会話ができるから、言語の面で人の役に立てることは頑張ろう!」と心に決めていたようです。言語の異なる各国の子弟やリーダー、留学生の方々と、大河なりに言葉を選び、交流を取ることができるよう努力したようです。帰国後も違う国の子弟同士でメールのやり取りもしており、嬉しい限りです。今まで、日本語とポルトガル語での通訳役はする機会がありましたが、新たに違う言語の方がいた時に「どうやってコミュニケーションを取ったらいいのか」と自分自身で考えることを学んだようです。

ホームステイでお世話になった松田さんご夫妻には、孫のようにかわいがっていただき感謝の限りです。我が家にお客さんが来たり、泊まったりする際には、以前より積極的に手伝いをしてくれるようになりました。松田さんのご親切さと大変さに改めて気がつけたのだと思います。

将来の福岡県人会の担い手となれるように、また大河の目標の県費留学生となれるように、応援し続けていけたらと思っています。本当にありがとうございました。



コロンビア福岡県人会

中村 スアレス 光咲 アレハンドロ

Nakamura Suarez Misaki Alejandro

「プログラムで得たこと・学んだこと」

このプログラムは私の人生に多くの変化をもたらした。肉体的にも精神的にも自立することを学んだ。また、日本語と英語についても学びました。とても気に入ったので、現在も勉強中です。他の国籍の子どもたちと同じ気持ちで分かち合い、日本人のルーツを学び、一緒に遊び、彼らの国を知り、同時に福岡の街を楽しむことは素晴らしいことでした。今ではアメリカ大陸中に友達があります。

福岡と福岡の人々が大好きになりました。彼らは素晴らしく、とても親切で、何より尊敬に値する人たちです。彼らは市民として高いレベルの教育を受け、法律を尊重し、私の出身国に比べて非常に進んでいます。福岡の学校に行き、福岡の子供たちと一緒に過ごすことで、言葉は障害にならないことに気づかされた。

福岡市には、世界に提供できる観光の可能性がたくさんあります。私は建築を学びたいのですが、その建築に感銘を受けました。古いものと近代的なものが福岡の美しい街を形成しています。

福岡県からの移住者の子孫と留学生のためのプログラムの担当者の皆さんの配慮は、特別なものでした。

～御家族からのメッセージ～

まず初めに、光咲がこのような素晴らしい経験をし、曾祖父母である中村末次郎と中島貞江が生まれた街を知ることができるよう、いつも丁寧に親切にしてくださった福岡県人会コロムビア協会に感謝したいと思います。リーダーシップ研修プログラムは、光咲をより自立した子供にし、自分のルーツである日本文化をより好きにさせ、福岡に帰るために勉強を続けることを熱望させました。

この旅を通して、子どもはより社会的になり、他の国や文化の子どもたちと一緒に暮らしていても、共存は常に楽しいものだと理解するようになりました。

福岡県移住子孫プログラム担当の皆様にご心から感謝いたします。



南加福岡県人会
篠原 ウィリアム 昌
Shinohara William Sho

「プログラムで得たこと・学んだこと」

太宰府天満宮にいき、初めてお守りを見ました。いろいろな幸運のお守りがあり興味深いものでした。そこで父と母のためにお守りを二つ買いました。ドンキホーテは大きな店でたくさんの商品がありました。福岡副県知事への訪問は緊張しましたが、自己紹介をしてプレゼントを渡しました。うちわの工場ではうちわの作り方を勉強して、自分で作って良い経験ができました。日本の小学校で私たちはグループにわかれ自分たちの国について作った紙でプレゼンテーションをして、けん玉や折り紙、ふくわらいなどの日本の伝統的遊びをしました。生徒たちが教室を掃除しているのを見て、アメリカの小学校では生徒は掃除をしないので驚きでした。

安川電機ロボット工場では、たくさんロボットがあり、おもちゃの車を作るロボットやルービックキューブを解くロボット、子どもたちといっしょにゲームをするロボットがありました。小倉城ではいろいろな、仮装の服を着ることができ、たくさんの興味深いものがありました。城の上から見る風景はとても美しかったです。福岡タワーに巨大ガチャガチャがあり¥5000札しかなかったのが、購入はできず残念でしたが、最上階からの景色は素晴らしい経験でした。

防災センターでは地震や火災の際の対処方法を学びました。ホームステイ先では部活の卓球の試合やショッピングモール、回転すしに連れて行ってもらいました。ホストファミリーとの別れのときはとても悲しくて泣いてしまいました。また日本を訪れる日が待ちきれません。

引率していただいたアキさん、お世話をしていただきありがとうございました。福岡県子弟招へいプログラムはとても楽しくて、刺激的でした。このような素晴らしいプログラムに参加できてとても幸せです。ありがとうございました。

～御家族からのメッセージ～

この福岡県子弟招へいプログラムに参加する3年前から、ウィリアムに私の故郷の福岡でこのような素晴らしい経験ができるプログラムがあることを伝えていました。その時まだ息子は何かあまり理解していなかった為、11歳になった時に参加する意思があるか心配でしたが、プログラムに参加することを決めたことに息子の成長を感

じました。

プログラム中に福岡の文化や食べ物を体験し、友達もでき、素晴らしい経験ができたと思います。プログラム参加後は、自分の身の回りのことは前より積極的にできるようになり、自分に自信をもてるようになったと思います。お小遣いを自分で計画して使うことも良い経験になったと思います。また日本語学習についても以前よりも積極的に日本語を話そうと努力して前向きになってくれたと感じます。

このような素晴らしいプログラムに参加させていただく機会を与えていただきありがとうございました。



シアトル・タコマ福岡県人会
船越 ペネロピ ユメ セレラ
Funakoshi Penelope Yume Cerera

「プログラムで得たこと・学んだこと」

招へいプログラムは私にとって、感動的な体験でした。様々な活動、買い物、週末の小旅行など、どれも心に残る思いです。このプログラムを通して、世界各国から来た人たちと友達になることができたし、その国について、学ぶことができました。

次の参加者に助言するならば、緊張することがあるかもしれないけれど、参加できている時間いっぱい楽しむこと、蚊に気を付けること。蚊はどこにでもいるので、対策をしていくといいと思います。買物する時、一気に小遣いを使わないこと。

私たちが観光したところの歴史や建物の詳しい説明などを理解するのは難しかったけど、先祖の歴史、ルーツを肌で感じることができ、貴重な経験でした。

～御家族からのメッセージ～

この度、娘ペネロピが、初めて日本を訪れ、先祖のルーツである福岡県を訪問でき、貴重な体験をさせて頂きましたこと、本当に、ありがとうございました。今年の夏、娘が招へいプログラムに参加させて頂けたことは、私たち家族にとっても貴重な経験となりました。

娘は、自分の中に受け継いできているであろう、日本人の伝統文化を、今回の福岡県の旅により、体験として、それを繋げることができました。福岡県のような文化体験と、大好きな日本食を食べられたこと、買物の経験も多くでき、楽しそうでした。

福岡国際空港に到着してすぐに、この国(日本)の伝統文化の雰囲気をととても感じ、自分自身がその中に吸い込まれていくような感じがした、と言っています。彼女は、日本の文化の魅力や、地元の風習と地域の歴史にも魅了されました。彼女は、それらの美しい伝統文化の雰囲気に、すっかり陶醉しました。彼女自身も、自分は「日本人」だ、という事実初めて気づかされた瞬間でもありました。親として、それを聞いた時に、胸がいっぱいになりそうでした。

一番の思い出は、地元の小学校を訪問できたことで、多くの生徒たちと繋がりを持てたことと、合宿で、様々な国々からのお友達が新しくでき、興味深い人々との出会いもあったこと。今回の、招へいプログラムのお陰で、様々な体験や文化に触れられたこと、幅広い人たち・子どもたちなどと交流させていただけました。この招へいプログラムを練り上げて下さった、福岡県国際交流センターの皆様、私たちは感謝の念でいっぱいです。

娘が、招へいプログラムに参加し、アメリカの家に戻って来てから、もうすでに良い変化が起きています。まず、彼女は、人として成長したな、と感じました。次に、彼女は、自分の将来のことへ、とても前向きになったことです。「自分のルーツを探った」おかげで、彼女には自信が出てきたよう見えます。もう一つは、娘は、自分のやることに、責任感が強くなりました。自習的な姿を見せる娘ようになった娘は、毎日、私たち親に頼ることもなく、独り立ちしつつあります。また、彼女は、日本語とスペイン語と英語の3言語を、日々練習し続けています。そして、日本に対する「愛しい気持ち」は、益々、増してきています。日本からの帰国後、私たちに、今回の「日本の旅」について、いつも話してくれます。今回の「招へいプログラム」で知り合った友達のこと、美味しい和食を食べたこと、地元で経験できた風習、地元の祭りに参加できたことなど、その全てが、貴重な思い出となりました。

今回の「招へいプログラム」は、娘の世界を一変させてくれました。この経験により、彼女の福岡県に対する興味

と愛情は、より深まりました。彼女自身は、日本訪問以降、自分らしさや、日本人としてのアイデンティティを強く意識し、それを個性として感じるようになっていきます。彼女は、今回の旅で得た、様々な思い出や友情などを、これからの人生の中で、ずっと忘れずに生きていけるでしょう。

今回の旅は、まぎれもなく、一生で最高の経験だったと思います。素晴らしい経験をさせて下さった「招へいプログラム」・福岡県国際交流センターの皆様には、心から感謝申し上げます。私たちは、この「招へいプログラム」を、皆さんにもお勧めしたいと思います。



ハワイ福岡県人会
岩本 リー ケイラ はるか
Iwamoto Lee Kayla Haruka

「プログラムで得たこと・学んだこと」

私が習ったことは、4つあります。1つ目は、ほかの国の友だちと会ったことです。違う言葉をならって、おもしろかったです。メキシコの子がスペイン語を教えてくださいました。毎晩、ほかの国のともだちとサッカーをして、楽しかったです。

2つ目は、山笠を見たことです。小さい子どもも山笠とみんなと一緒に走っていて、すごかったです。昔のハワイアンがはいていたパンツみたいなのを山笠の人たちもはいて、ハワイも日本も同じだと思いました。毎年この祭りをしていると聞いて、びっくりしました。3つ目は、うちわを作ったのが楽しかったです。木のかわでうちわを作ったのが楽しかったです。最後に、梅が枝餅とかつ井をはじめて食べました。ほんとうにおいしかったです。

このプログラムに参加して、福岡についてならって、よかったです。大きくなったら、県費留学生になって、このプログラムにまた参加したいです。ありがとうございました。

～御家族からのメッセージ～

このプログラムに参加して帰ってから、自分の身の回りの事を率先して、自分でするようになったと思います。最近では、よく「自分でできる」と言って、行動するようになりました。また、言葉の違う南米の子達と友達になりコミュニケーションできたことにより、他の文化に対する興味ももっと出てきたように思います。また、普段は実家がある北九州しか行かないので、福岡のいろいろな場所に行き、山笠に参加したことで、福岡についてもっと知ることができ、福岡への興味ももっと出てきたように思います。

将来、県費留学生として、このプログラムを助けたい、福岡の大学で勉強してみたいと言っていました。今回の経験を通して、今後も福岡への関心を持ち続けることと思います。大人になり、ハワイと福岡の架け橋になってくれたらと思っています。この度は、貴重な機会を頂き、誠にありがとうございました。



ペルー福岡県人会
松藤 カイ
Matsufuji Venegas Kai

「プログラムで得たこと・学んだこと」

とてもいい経験 でした。福岡県での生活や文化を知ることができました。また、他の国の友達を作り、私のような家族がそこでどのように生活しているかを見て、私はより自立することを学びました。

私はこのプログラムに参加し、本当によかったと思います。みんなといっしょに生活し、他の人と共有することができました。友達もいっぱいできました。どうもありがとうございました。

～御家族からのメッセージ～

息子は、プログラムに参加する前より落ち着きがあり、不快または困難な状況で、彼は課題と向き合い、次のことに注意を払っていることに気づきました。何か指示をすると前より早く行動をします。カイはより自立し、周囲の状況をより意識しているように感じます。行く前はとても不安でしたが、今はカイの成長を見て、参加してとてもよかったと思っています。とても感謝しています。



メキシコ福岡県人会
ロメリ 行徳 ゴエ
Lomeli Ygotoku Zoe

「プログラムで得たこと・学んだこと」

私が一番びっくりしたことは日本とメキシコの時差でした。私がいた日本は月曜日でしたが、メキシコでは日曜日でした。私にとってこれはとても信じられなくて面白かったです。

このプログラムのお陰で、初めて私は家から離れて日本に行くことができました。しかも、私はいろいろな国の新しい友達を作ることができました。それから、日本の小学校で交流してくれた福岡の子供に会うことができました。あの時、シャイで緊張していた私に、みんなは私のことをよく歓迎してくれました。

～御家族からのメッセージ～

まず、私は娘にこのようなプログラムの経験をさせていただいて、皆様にとっても感謝しています。娘はうれしくてたくさん楽しんでたくさん友達ができ、家に帰りました。

このプログラムのお陰で娘はすこし変わったと思います。彼女はとてもシャイですが、今回は他の人ともっと話してもっとコミュニケーションできるように努力しておりました。娘にとってそのような素晴らしいところを見に行くと、とても親切な人に会えて、日本の文化や日本の食べ物を経験ができたので、彼女は他の国や他の文化にも興味を持つようになりました。

私の気持ちはこれからこのプログラムでもっとたくさんの子供が参加できるようになるといいなと思っております。子供の嬉しい顔を見て、親にとっては心が温かく感じることをしております。



アルゼンチン福岡県人会
ペドレ エミリア
Pedre Emilia

「プログラムで得たこと・学んだこと」

このプログラムを通じて、私は笑い、物語を共有し、サッカーやバレーボールの試合を共有し、そして常に心に残る多くの経験を共有した他の国からの友人を得ました。福岡を巡り、現代と伝統が融合した文化や習慣について学びました。私たちは寺院と城を訪れました。日本の学校では、生徒たちが教室を掃除したり、食事を配ったりする様子を見学することができました。アルゼンチンでは通常そんなことはしません。ある学校で子供たちと遊んでいたとき、そのうちの一人が私たちに別れを告げるときに泣いていたことに感動しました。

また、そこでの電車での旅行がどのようなものであるか、食事の時間や食べ物の種類についても学びました。彼らの年上の大人に対する敬意と人々の優しさに驚きました。

私に機会を与えてくださった皆様、特に福岡県、国際交流センター、私たちを親切に受け入れてくださった学校、そしてこの忘れられない経験を可能にくださった皆様に感謝いたします。

～御家族からのメッセージ～

エミリアは、数年間土曜日の日本語授業に通っていたものの、旅行前は日本語にあまり興味を示さなかった。しかし、招へいの可能性と旅行の確認により、彼女の言語と文化への関心が高まりました。旅行後、私たちは彼女が成長したこと、滞在を本当に楽しんでいること、友達を作って文化を学ぶことができたこと、そして日本語を勉強して福岡に戻ることに興味を強く目覚めさせたことに気づきました。将来、彼女は県人会の子供たちに招へい事業の申請に興味を持ってもらい、この経験の良い点をすべて伝えたいと考えています。

この事業を子供たちにとって素晴らしい、忘れられない経験にしてくれたすべての人々に心から感謝します。



パラグアイ福岡県人会

伊藤 葵

Ito Aoi

「プログラムで得たこと・学んだこと」

今回の子弟招へいプログラムに参加できて、とても感謝しています。日本に来る前は、とてもドキドキしていましたが、福岡県でみんなと一緒に過ごした日々は、とても楽しい思い出になりました。

このプログラムでは、たくさんのことを体験しました。日本の小学校に行って、みんなと授業を受けたり、神社(太宰府)を見学したりしました。さらに、イルカやクジラを初めて見た時は、本当に感動しました！日本でしか食べられない美味しい料理もいっぱい食べましたし、ショッピングへ行きパラグアイには無いものを買いました。福岡タワーに登ったり、防災センターで勉強したり、ロボット工場の見学、すごく面白かったです。そして、ひいおじいちゃんやおじいちゃんのふるさと見る事が出来て嬉しかったです。

日本に来た時は、言葉の違いや文化の違いにちょっと困ったけれど、みんなと一緒に遊んだり話したりするうちに、その壁もだんだんと無くなっていきました。日本の子供たちや他の国の子供たちと友達になれて、すごく嬉しかったです。

最後に、福岡国際交流センターの皆さん、福岡県人会、ホームステイ先の佐野秀雄様、リーダーの皆さん、そして一緒に学んだみんなに「ありがとう」を伝えたいです。心から感謝しています。この経験を大切にして、これからも頑張りたいと思います。

～御家族からのメッセージ～

福岡県国際交流センターの皆様、福岡県人会の皆様、この度は娘がお世話になり、心から感謝申し上げます。葵は日本から帰ってきた後、自信を持ち、新しいことに挑戦するようになり、コミュニケーション能力も向上しました。日本の文化を経験して視野が広がり、世界についてもっと知りたいという気持ちが強くなりました。

この貴重な経験を提供していただき、ありがとうございました。

参加者レポート

青年リーダー



ブラジル福岡県人会
池尻 直美 カレン
Ikejiri Karen Naomi

県人会担い手育成招へい事業を通じて、子どもが幼い頃から福岡の文化に触れることがいかに大切かということを実感しました。子どもたちは他の国の子どもたちと友達になり、たくさん交流しました。子どもたちは、小倉城、福岡タワー、マリンワールドなど、県内の観光名所を訪れる機会を得ました。また、太宰府の有名な饅頭も食べました。

さらに、福岡の学校2校を訪問し、生徒たちと交流し、彼らの習慣について学ぶ機会もありました。これらの経験はすべて、子どもたちが自分の祖先はどこから来たのか、地元の文化について知る事の大切さを、幼い頃から学ぶのに非常に重要でした。

リーダーとして得たこの機会を通じて、他の国のリーダーや子どもたちと出会い、友情を増やすという経験に加えて、福岡とブラジルの友情の絆を維持することが不可欠かつ非常に重要であることを学びました。この旅行を通じて、子どもたちが将来の奨学生、さらには将来のリーダーになることを奨励され、福岡とブラジルのつながりが維持されると信じています。



マナウス福岡県人会
宮崎 アルメイダ ジャイロ
Miyazaki Almeida Jairo

日本への交流プログラムは、人生を変える経験でした。飛行機に乗った瞬間、不安と興奮が入り混じった気持ちになりました。日本に到着すると文化、伝統、そして異なる生活様式に満ちた新しい世界に入っていくようでした。一言でいえば、私の福岡での経験は、自己発見と学習の旅になりました。

伝統と現代性が独自に混ざり合った福岡の街は、私の心に消えることのない痕跡を残しました。

博多祇園山笠は、私に最も大きな印象を残したイベントの一つと言えるでしょう。人々が古くからの伝統を守るために肉体的にも精神的にも努力しているのを見て、とても感動しました。

帰国することは、思い出だけでなく、人生に対する新しい視点と家族の文化と繋がることの素晴らしさを持ち帰ることも意味しました。

最後に、招へいプログラムの間に築いた友情は貴重なものです。世界のような地域の人たちと経験を共有することで、一生続く絆が生まれます。日本への交流プログラムは、単なる旅行ではありません。それは、個人の成長、学び、そして何よりも魅力的な文化の豊かさを体験する機会となります。自分の国へ戻ると、思い出がよみがえるだけでなく、世界と自分自身に対する新たな視点を持ち帰ることができます。



コロンビア福岡県人会
竹上 隆
Takegami Takashi

*はじめに

福岡県人会育成事業への参加は、文化体験、自己成長、地域社会との関わりをユニークに融合させ

た啓発的な経験であった。福岡から移住した人々の子孫と自分たちのルーツをつなぐために企画されたこのプログラムは、日本文化への理解を広げただけでなく、自分が受け継いできた遺産への感謝も深めた。

*文化への没入

このプログラムで最も衝撃的だったのは、日本文化に深く浸ったことです。太宰府天満宮のような歴史的な場所を訪れたり、福岡市の現代的な活気を体験したりすることで、私はこの地域の文化的景観を包括的に理解することができました。伝統工芸品を作ったり、地元の祭りに参加したりすることで、日本の伝統を肌で感じる事ができました。このイマージョンは単に見学するだけではなく、参加し、それぞれの活動の背景にある文化的意義を理解することだった。

*個人の成長

このプログラムは、個人的にも大きな成長を促しました。青少年リーダーとして、スケジュールの管理、若い参加者の健康管理、グループ活動の進行などの責任を担うことを学びました。この役割では、リーダーシップ・スキルを身につけ、スペイン語、英語、日本語での効果的なコミュニケーション能力を向上させる必要があった。さらに重要なことは、子どもたちの世話をする上での共感力と適応力の重要性を学んだことです。このような経験を通して、私はリーダーシップの微妙なニュアンスと、若い心を育み導く上で果たす重要な役割について、より深い理解を得ることができた。

*コミュニティへの関与

このプログラムの核となる要素は、つながりを築き、維持することに重点を置いていたことです。多様な背景を持つ他の参加者と交流することで、福岡の子孫というグローバルなコミュニティを理解することができました。これらの交流は、文化的なつながりを維持し、私たちの遺産を促進し保存するために協力することの重要性を浮き彫りにしました。

*結論

福岡県人会育成プロジェクトは、文化遺産、自己啓発、地域社会への参加について多くを教えてくれた貴重な経験だった。世界とのつながりを育みながら、自分たちの文化的ルーツを守ることの重要性を再確認した。帰国するとき、私は自分の遺産をより深く理解し、福岡の地域社会に貢献するという決意を新たにしました。このプログラムは、自分の文化的アイデンティティの理解を深めただけでなく、人生のあらゆる分野で役立つスキルや経験を与えてくれました。



南加福岡県人会
ブラウン 松本 晃子
Brown Matsumoto Akiko

この度は、子弟引率者として大変貴重な体験をさせて頂き、お礼申し上げます。日本の伝統文化の体験、同世代の子ども達との交流、県庁視察など、福岡県の素晴らしさを感じることができました。

このプログラムを通じて、海外各地の日系コミュニティ県人会の繋がりの大切さを実感しました。招へい事業に参加した子どもたちが、福岡にルーツがあることを誇りに思い、今後グローバルリーダーとして活躍する事を期待いたします。

また県費留学生は、子弟達の頼もしい存在であり、12日間で培った絆を感じました。この海外県人会の繋がりを大切に、将来の事業のお手伝いをさせて頂ければと思います。

今回知り合った皆さんとの出会いも私にとって宝です。またお会いできる日を楽しみにしています。今回お世話になった多くの皆さまに、心より感謝申し上げます。



ハワイ福岡県人会
ミッシェル イー シンプソン
Michele Yee Simpson

今回のプログラムを通して、普段観光客としては経験できない福岡の文化、言葉をより知ることができました。今回特に楽しんだことは、八女和紙工芸センターでの和紙うちわ作り、小倉城訪問、そして博多祇園山笠で、走っている神聖な山笠に水をかけたことです。今回の訪問で一番よかったことは、ホストファミリーと一緒に過ごしたことです。ホストファミリーは、私を飯塚市の弥山にある私の曾祖父母の村に連れて行ってくれました。曾祖父母が1900年以前に住んでいた村が今もあることは、とても思い出に残るものでした。また、他のチームリーダーと、友達の間係を築くことができ、今も WhatsApp で、今回の旅行について写真を送りあったり、おしゃべりしたりしています。私達は皆、今回の機会に心より感謝しています。

このような素晴らしい国際交流に参加させて下さり、ありがとうございました。敬具



メキシコ福岡県人会
井上 カレン
Ynoue Karen

私はこのプログラムのお陰で二十三年ぶり福岡に戻ることができました。しかし、今回は学生としてではなく、また違う立場から福岡を見ることができました。

このプログラムのお陰で、心の中にも頭の中にもたくさん思い出を残しました。同じようなリーダーのみなさんと一緒にいろいろなお話できて、特に自分の家族やお仕事について話ができ、とても楽しかったです。特にアメリカのアキ子さん、パラグアイのマナミさんとハワイのミカさんとよくお話しができましたので、またみなさんに会えるのを本当に楽しみにしています。私はこのような年齢で新しい知り合いができて、しかも他の国の方々に会えて、とても素晴らしいと思っています。

メキシコのゾエちゃんの引率者として、ゾエちゃんもほかの子供のみなさんもこれから頑張ってまた福岡に来たいなと思っていた姿を見て、私は自分の昔のことを思い出し、自分の昔と同じ頑張りたい気持ちを見ていたらとても感動しました。

私はこのプログラムに参加させていただいて、自分は福岡のことも日本のことも更に心に強く感じています。私の祖父母は福岡県人で二人とも亡くなっていますが、私は自分のルーツを改めて強く感じるようになりました。

私は福岡県国際交流センターの皆様にとっても感謝しております。大変お世話になりました。



ペルー福岡県人会
佐々木 ナルミ
Sasaki Narumi

福岡に到着すると、私はとても豊かで魅力的な文化にどっぷりと浸かり、最初の瞬間から心を奪われた。古くからの伝統、人々の生来の礼儀正しさ、風景の美しさに、私は畏敬の念を感じた。言葉だけでなく、日本を特別な国にしている価値観や習慣を実践する機会にも恵まれた。しかし、文化的な側面にとどまらず、この交流は私を人間として成長させてくれた。家から離れて生活し、新しい課題に直面することで、自立心、自信、適応力を養うことができた。また、様々な国から来た素晴らしい人々と出会う機会にも恵まれ、彼らとは末永い友情を築くことができた。

この経験を可能にしてくれたすべての人々に心から感謝します。帰国して、私は将来の課題に立ち向かう準備

ができたと感じている。異文化の中で生活し、多様性を尊重することを学んだという経験です。本当にありがとうございました。



アルゼンチン福岡県人会

津留 イリナ

Tsuru Irina

日本滞在の 2 週間はあっという間に過ぎて、多くの思い出や経験を私に残してくれました。短い期間でしたが福岡県副知事や議長さんにも会い、太宰府天満宮、水族館、工芸センターでのうちわの作り方、博多山笠の練習風景、ロボット工場、福岡タワー、小倉城 など数多くの所を見学することができました。

又、那珂小学校や黒木小学校を訪れた際には、学生との話し合いの場もあり、そこで私はアルゼンチンの国のこと身近な自分達の生活などを発表説明しましたが、そこには県費留学生が通訳としておられ、とても助かりました。良い体験でした。ドンキホーテやららぽーとでの買物も楽しかったです。

普段とは違った世界を見て知って、私の世界もちょっと広がった気がします。このようなすばらしい機会を与えてくださった福岡県国際交流センターの皆様、本当にありがとうございました。そして県人会の皆様、家族会、県費の方々、いとこのアラバウラ、ミカエラ、本当にお世話になりました。ありがとうございました。



パラグアイ福岡県人会

石川 眞奈美

Ishikawa Manami

この度県人会担い手育成子弟招へい事業のリーダーとして参加出来た事は、重要な体験でした。皆様との出会い、事前に準備がしっかりされたプログラムの中で沢山のことを体験し、学ぶことが出来ました。参加者と自分達の県人の活動、日常生活、仕事、互いに違う国や文化の中での生活について話し合えました。

毎日のスケジュールもあっという間に過ぎ、特に防災センターが印象に残り、自分の国では地震がないので本当に起きればまだ色々な物が落ちたり飛んできたりすると思うと、もう恐ろしく体験後は日程の間起きないことを毎日願ったものです。

太宰府天満宮では、学業の神様で福岡では合格祈願に多くの方が訪れると言うのは聞いていましたが、そのほかに厄除けでも有名だと聞かされました、そこには牛の巨人象がありそれを撫でると災禍を防ぎ健康を招くといわれています、そこでは御祈禱をしてもらいとても良い体験が出来ました。

マリンワールド海の中道は九州の海をテーマに約350種類三万匹の生物を展示する水族館です。印象的なのは肉眼で見られた可愛いペンギンたちでした。アシカとイルカショーでは、飼育員方との一体感と笑いあいの楽しいショーでとてもよかったです。

八女伝統工芸館では高さ6,5m大型金仏壇、10,5mの巨大な石灯ろう、高さ3mのジャンボ灯ろう、八女茶、地酒、和こま、八女矢、竹材品、木工品、手漉き和紙などが集められた施設で、伝統工芸品の展示や職人の実演、見学、そこで初めて手漉き和紙うちわ作り体験ができ、自分用の作品ができました。

八女市立黒木小学校と福岡市立那珂小学校での交流会では、参加したそれぞれの国の紹介をしたり、日本の生徒さんが一生懸命に色々な遊びや折り紙、歌を用意してくださったり、大人も子供も楽しい時を過ごせました。給食がない私の国では給食体験をさせていただき、引率した子供はとても喜んでいました。

ららぽーと見学では、高さ24,8m歴代実物大ガンダム立像に圧倒され、説明によると日中は10時から18時まで一時間ごとに、音楽に合わせて立像が可動し、夜間は19時から21時まで30分ごとに、壁面の特別映像とともに立像が動くと言われ、参加者一同驚きの連続でした。ららぽーとの名前の由来はフランス語で港を意味するそう

です。その建物の中にはファッションをはじめ、食やエンターテインメント施設などが集積した商業施設がありました。

安川電機ロボット工場ではロボット村や製品の製造工程を見ることができました。ここではモーション制御、ロボット技術、パワー変換のコア技術の製品を展開していました。案内して下さったお話では、1977年に国内初の全電協式産業用ロボット(MOTOMAN モートマン)を開発しそれ以来、溶接、組み立て、塗装、ハンドリング等、様々な作業を自動化するロボットを次々に開発して、国内外の産業用ロボット市場をリードしているそうです。

福岡タワーは全長 234m、海浜タワーとしては日本一の高さを誇り、地上 123m にある、最上階の展望室からは、福岡の街並みや博多湾などの景色を 360 度のパノラマで一望できました。

小倉では大名かごに乗ったりして楽しかったです。最上階の天守閣からは小倉の街が一望でき、素晴らしいパノラマでした。

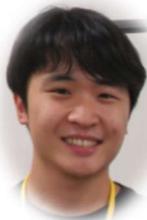
博多祇園山笠追い山ならしは、祭りで約 4 キロ太鼓の音と勇ましい(オイサ！オイサッ!)の男衆の掛け声で清道になだれ込んできます。重さ1トンの舁き山笠が驚くようなスピードで走り抜ける様は、見る人全てを圧倒される祭りで観光客数にもびっくりしました、

ホストファミリーでは、以前何度か対面する機会があり、それに偶然に私の旧姓と同じ名字なので、本当の親戚に会えた気分でした。奥さんと息子さんは初対面でしたが以前からの知り合いのように接していただき、おばあさんにも会えて話し方が方言で話すので、亡くなった祖母に会えた気分であたたかい気分になりました。忙しい中、買い物に行くのに色々な乗り物鉄道、新幹線、地下鉄、路線バス、タクシーを体験させてもらいました、本当にありがとうございました。

このプログラムに参加して得たこと学んだことは団体行動におけるルール、子供の視野を広げると共に異文化教育を受けさせて頂くことが出来ました。母県と県人会との絆や海外県人会の存続活性化を願って下さっている事を理解する事が出来ました。企画から実施に主管して下さった福岡県知事、福岡県議会、国際交流センターの方々、留守家族の皆様、福岡県民の皆様、手伝って下さった留学生の皆様心から厚くお礼申し上げます。お世話になりありがとうございました。

参加者レポート

福岡県移住者子弟
(県費留学生)



ブラジル福岡県人会
山積 エドアード 成一
Yamatsumi Eduardo Seiti

子弟招へいでは、ブラジルの子どもたちと一緒に過ごし、他の国の子どもたちと青年リーダーとも交流しました。これにより、文化の違いと共通点を学びました。また、話し方を工夫し、その国の習慣を尊重することが大切だと学びました。この経験で、異文化についてもっと理解できるようになりました。

私は活動の計画には関わっていませんでしたが、子どもたちの世話をしました。物を無くさないように、迷子にならないように気を付けました。これを通じて、話し方や見守るスキルが上達し、落ち着いて対応できるようになりました。

昔から、日本の学校が舞台のアニメやドラマが好きでした。実際に日本の学校を訪れたことで、日本の教育やブラジルとの違いをもっと理解できました。グローバルアリーナで、スマホゲームや野球などの遊びをしました。同じ言葉を使わない子どもたちと交流するときは、言葉を使わない遊びが大切だと感じました。

子弟招へいでは、異なる文化や教育について学び、見守るスキルを高める良い機会でした。参加できて、とても感謝しています。



パラグアイ福岡県人会
北川 西岡 クリスティーナ 彩
Kitagawa Nishioka Cristina Sayaka

今年の7月に私たち県費留学生は、子弟招へいのプログラムに参加しました。最初は不安がありましたが、参加してみて良かったと思います。

参加して得たことや学んだことは、色んな国からの参加なので自分の国だけじゃなく様々な国との交流ができたこと。日本と福岡の文化を学び、色んな国の文化なども知れた週だったと思います。県費のみんなや子弟招へいの皆さんと、福岡タワー、小学生の交流、買い物、水族館など色んな場所へ行ったり、美味しいごはんを食べたりと、楽しい思い出になりました。

福岡国際交流センターのみなさんのおかげで、本当にいい経験ができました。ありがとうございます。



在ボリビア福岡県人会
藤田 大輝 ミゲル
Fujita Daiki Miguel

招へい事業に参加して得ることが出来た経験は色々ありますが、一番はやはり子供たちとの言語問題だと思います。日をかさねる事で子供たちや青年リーダーたちとは打ち解けていくのはわかっているけど、やっぱり日本語や英語、言語を少しでも理解できたら少し違ったのではないかなって思いました。だからこそ、僕自身もうちょっと英語をもっと勉強してみようと思いましたし、それと同じく日本語ももうちょっと勉強してみようと思います。

招へいの事業での子供たちのための色々な福岡の有名な場所への訪問は、凄く僕自身にとっても歴史の勉強になったと思います。



在ボリビア福岡県人会
 徳永 アルベルト 準一
 Tokunaga Alberto Jyunichi

プログラム通じて学んだことが2つあります。

一つ目が、言語の重要性を感じる事ができました。今回来られた7カ国でしたがスペイン語、英語とポルトガル語を話す国がお越しになっていました。母国の国の言語しか話せない青年リーダーや子供達とはコミュニケーションがしたくても違う意味で取られる出来事があったので、ちょっと言語の勉強が足りてないと思いました。

二つ目が11人の子弟、9人の青年リーダー達と福岡の文化や習慣、歴史を学びました。また、地元の学生や家庭との交流を通じて、異文化理解の重要性と互いに尊重し合うことの大切さを実感しました。



メキシコ福岡県人会
 谷川 フロレス ヨアリ
 Tanikawa Flores Yoali

このプログラムでは、私はよく考え、知り合った期間が2週間だけであっても問題はないこと、私たちは皆日系人であるという単純な事実が私たちを人間として団結させているということを知りました。そして、私たちは多くのことを共有しており、それが関係をより容易にするのに大いに役立ちました。

他の国の子供たちが日本を見に来るのを見るのが好きです。それは彼らが自分たちのルーツや文化に興味を持っていることを意味するからです。さらに、最初は少し内気で少し恥ずかしそうな子供たちを見たことがとても気に入りました。彼らは、初めは興味を示さなかったが、最後には、その経験の終わりには、帰りたくなかった、そして私は、このプログラムが彼らと私両方の絆を深めたことを知りました。何年も前にこのプログラムに参加する機会がありましたが、怖くて参加しなかったため、今回違った形で経験できたことは個人的にとっても嬉しくて、とても気に入りました。また、このユニークな機会を利用して、もっと多くの国の子供たちに会いたいと思いました。このプログラムを継続し、さらに強化して欲しいと思っています。

また、組織を手伝うことができ、毎日何が行われるかを認識できるようになったことで、私はより責任感を持ち、組織化され、この重要なプログラムを実現するために必要なあらゆる努力と仕事を知ることができました。私たちが体験できたアクティビティの多さに感銘を受けました。そして、私にとって最も印象に残ったことは、小学校を訪問したことでした。また違った学び方を見て、純粋で可愛い子どもたちに出会えて、気持ちがとても楽になりました。

機会をいただき、またご尽力いただきまして誠にありがとうございました。



ペルー福岡県人会
 玉那覇 松藤 ディエゴ
 Tamanaha Matsufuji Diego

このプログラムは、私たちの日本人の祖先を強化し、それを子供たちに植え付ける非常に興味深い機会となりました。福岡の場所を見て、文化的な経験をしたことで、自分のアイデンティティと歴史をより深く理解することができたと思います。自分の苗字が福岡の歴史と文化をもたらしていることを子供たちに認識させることが重要です。彼らはこのプログラムを楽しく理解することができました。私たちが共有した瞬間、ゲーム、笑い、訪れた場所、そしてグループの団結が気に入りました。

さらに、ラテンアメリカやアメリカの他の地域から来た人々と一緒に暮らし、私たちの類似点や相違点について学ぶことは興味深いことでした。とても豊かな文化交流が行われました。出身国は違っても、福岡の祖先が私たちを

結び付けています。福岡が都市としてだけでなく、文化、歴史、美食としてどれほど大きく発展しているかを学び、知ることができました。

新しい友達と福岡の文化とのより深いつながりをもたらしたこの経験にとっても感謝していますし、これからも忘れません。



ハワイ島福岡県人会
能丸 紘右 ジューン
Nomaru Kosuke June

今回の子弟招へいのプログラムではいろいろな体験ができました。自分にとって最も重要なことは、子弟招へいを留学生の立場として体験ができたことです。十二歳の時、2012 年度の子弟招へいに参加しました、その時の記憶は今でも残っています。今回はどちらかと言うと自分の記憶を辿る旅みたいな体験ができたと思います。

グローバルアリーナでの生活、行く先々のワクワク感、そして子供として過ごした日々をまた体験できたこと。時に大人になっていくことは子供の頃の純粋な心を忘れてしまいがちであるが、子供たちと過ごせた短い時間は自分のルーツを知る大きな機会であったと思っています。

もう一つ学んだことがあります、それは保護者としての役目に気づかされた事です。保護者は子供たちと直接友達になるのではなく、子供が繁栄できる環境を作る役目であることに気づきました。その時に、子供たちに好かれたら光栄だとは思いますが、それは子供たち次第だと思います。少しほろ苦い気持ちもありますが、責任を持った大人の役目みたいなものなのかもしれない。

このような経験と学びをさせてもらいました、本当に楽しかったです、ありがとうございました。

2024.7.5 ~ 7.16

Short Term Visit Program for
Young Descendants of Immigrants
from Fukuoka Prefecture